

JaNet

January 2019 No. 88

季刊ジャネット

Ja-Net は Japanese Network の略です。「にほんご」を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。

Contents 目次

2019年1月25日発行

- View from the Other Side 3
スウェン・ビエランさん(クロアチア)
- あちこち日本語ご紹介〈国内編〉..... 4
大阪府 大阪市
- あちこち日本語ご紹介〈海外編〉..... 5
スウェーデン ストックホルム
- 教材紹介 6
『新訂版トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 中級後期』
『改訂版 聞く・考える・話す 留学生のための初級にほんご会話』
『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 動画で学ぶ大学の講義』
『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期 第2版』
- なんでも情報 BOX 8

スリーイーネットワーク

巻頭
寄稿

外国人旅行者との異文化コミュニケーション —「おもてなし」から「オモテナシ」へ—



東海大学国際教育センター 教授

加藤 好崇

外国人旅行者への「オモテナシ」

京都八坂神社界限は夜も外国人で賑やかです。神社前の四条通にごく小さな文房具店があるのですが、夕食後一人でふらっと立ち寄ると、旅行者と思われる西洋系の若い女性が、カウンターでなにやら年配の日本人店員と話しています。どうもコミュニケーションに難儀している様子。彼女はなにか一生懸命伝えようとしていますがどうもうまくいきません。するとそれを近くで見ていた青年が「〇〇ということじゃないですか」と店員にアドバイスし、なんとか一件落着。その後、連れの男性のところに足早に戻って行ったその女性は、“How embarrassing!”と叫びながらもなんだか嬉しそうです。店員も仲介した青年もニコニコしていました。

旅先の外国で、時間はかかっても日本人と苦勞してコミュニケーションした体験は、

彼女にとっては八坂神社よりもずっと忘れられない思い出になったことでしょう。

現在、日本政府は2020年に4,000万人の外国人旅行者受入を目指しています。いまや大都会だけではなく「こんな所に!」と思えるような小さな町にも外国人が押し寄せえています。日本全国「おもてなし」の大合唱。ある人はこれを「おもてなし現象」と言っていました。

しかし、我々は日本人相手の「おもてなし」には精通していても、外国人に対する「オモテナシ」を本当に理解できているのでしょうか?

私は外国人受入に成功している各地の旅館などを調査していますが、ここではそんな調査で分かったことを基にしながら、観光における接触場面の「オモテナシ」を、「話題」「人」「使用言語」に分けて考えてみよう

と思います。

外国人旅行者と話題

さて、場面はもう一度八坂神社へ。

四条通を折れて祇園の花見小路通に入ります。すると外国人旅行者と思われる一団が必死にシャッターを切っています。そこは有名なお茶屋さんの玄関先。黒塗りのハイヤーから4人の舞妓さんが降りてきました。外国人が興味を持つ話題には、予想できるものと想定外のものがありますが、「舞妓さん」は予想通りのテーマ。

ちなみに、この外国人の「舞妓さん、芸者さん」への興味は、今から100年ほど前とあまり変わりません。クラシックホテルとして有名な箱根宮ノ下の富士屋ホテルでは、以前、夕食のメニューの裏側に英語で日本文化紹介が書かれていました。そしてそれ



挿絵が愛らしい『We Japanese』の「GEISHA」紹介頁

をまとめたものが『We Japanese』という書籍です。この本は、いわば 100 年前の観光接触場面のオモテナシ話題集。そこにも「GEISHA」という項目があります。「舞妓さん」と「芸者さん」の違いや、彼女たちが実質 5～10 年しか働けないことなどが説明されています。このように 100 年たっても変わらず関心を持たれる話題が、日本にはまだまだ残っています。

一方、外国人の関心には想定外のものも多くあります。旅館の人たちによると、外国人は部屋に連れて行くまでに、いろいろなところで「引かかる」のだそうです。玄関先に犬がいればペットの話題で盛り上がり、池で鯉を見つければ「かわいい」といって話題になる。仙台の旅館の B さんのお話では、外国人にはチェックインに 30 分近くかかる場合もあるとか。

旅館だけではありません。芦ノ湖の交番では、以前、外国人が地元のおまわりさんでさえ知らない焼鳥屋の場所をよく尋ねてきたとのこと。調べてみると、交番から数百メートルしか離れていないところに小さな焼鳥屋があって、どうもここがガイドブック『LONELY PLANET』に載ったために一躍人気スポットになっていたようです。今では店の看板はローマ字表記になっています！

このように観光接触場面の話題選びには、彼らの目線にたつことも必要です。

外国人旅行者と日本人

「結局は人ですよ！」

そう語ったのは外国人を多く受け入れる由布院の旅館の N さん。新宿での昼飲みの最中、N さんはこんなことばで「オモテナシ」を短くまとめてくれました。旅先でどんな人と出会ったかが旅の印象を左右する。それがリピーターを呼び込むことにも繋がる。

そして、人同士の関係を端的に言い表してくれたのが、外国人受入の草分け的存在、東京谷中にある旅館の S さん。

「客と宿ではなく、人と人なんだ。」

お客さんとして「おもてなし」をするのではなく、友達同士のようなフレンドリーさで「オモテナシ」をする。これを以前ポジティブ・ポライトネス化ということばで表現したことがあります。こう考えれば、外国人を怖がったり、特別に気を使って疲れてしまうようなことも少なくなります。

鳴子温泉の K さんは「外国人は日本人と話したがっている」と断言しています。つまり、人と人として日本人とコミュニケーションをするのがニーズになっているわけです。そして、冒頭にご紹介した文房具店の話のように、多少苦勞しても日本人とのコミュニケーションは旅の思い出になります。最近、新宿御苑の職員が外国語で話すのが怖くて無料で切符を渡し、約 2500 万円の損害を出したというニュースを見ました。外国人とのコミュニケーションを避けるのはそれこそ絶好の「オモテナシ機会」をドブにすてているようなものです。(もっともこの事件、外国人は喜んだでしょうが。)

外国人旅行者と英語？

「英語が使えなくてすみません…」

旅館を回っていて気づいたのですが、外国人が日本語を使うと、こんな気持ちになってしまう日本人がいるようです。おそらく英語を使うことが「オモテナシ」なんだと思っ込んでいるのでしょう。先ほどの新宿御苑の話ではないですが、英語を使うのが前提だと考えていて、その英語を使うのが怖くてコミュニケーションを回避してしまう。

それならとりあえず日本語を使ってみたらどうでしょう。世界には約 360 万人 (2015 年



旅館でのチェックインの様子

国際交流基金調査)の日本語学習者がいますし、日本語を本場の国で少しでも試してみたいと思う人も多いはず。日本語や日本語コミュニケーションそのものが、日本のお土産なのです！

「オモテナシ」のその先

「オモテナシ」のために話題を選んだり、人間関係を変えたり、使用言語に気を配ったり、なんとなく険しく感じる「オモテナシ」の道。これはある意味「日本人に対する日本語教育」なのかもしれません。

「でも、これは観光業の人たちのことでしょう？」と誰かの声。

う～ん、ここでもう一度八坂神社界隈へ。

花見小路通をさらに歩くと、前方からカメラを首からぶら下げた私と同世代の西洋系の男性が、一人でぶらぶら歩いてきます。「自分と似てる・・・」そう思うと、つい「こんばんは」と話しかけたくまりました。しかし、お互いに相手を横目で見ながらも、結局声をかけずじまい。

まずは私から日本語でフレンドリーに話しかけ、お互いの趣味でありそうなカメラの話でもすれば、友達になれたかも…。

おもてなしというとなんだかサービスの一環のような感じがしますが、何と言っても遠いところからたくさんのお金と時間をかけてやってきた「客人(まれびと)」に、親切にしたり、話したりしたいと思うのは普通のことです。こういった心情に根ざした「オモテナシ」は、すべての日本人が等しく実施すべきものではないでしょうか。

そして、その「オモテナシ」はこの先ますます顕在化する多文化共生社会に臨む日本人にとって、大切な「異文化トレーニング」と言えるのではないのでしょうか。

参考文献

国際交流基金 (2017)『海外の日本語教育の現状 2015 年度日本語教育機関調査より』

加藤 好崇 (かとう よしたか)

東海大学国際教育センター教授、モナシ大学大学院日本研究科修士課程修了、早稲田大学大学院日本語教育学研究科博士課程修了。モナシ大学、ハバロフスク国立教育大学などを経て現職。専門は日本語教育学、社会言語学。最新刊は『やさしい日本語とやさしい英語でおもてなし』(共著) 研究社。

このコラムでは、学習者の視点での話題をお届けします

クロアチアから新潟県十日町市へ

— 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて —

日本語の勉強や留学のきっかけ

大学に入学した頃は、日本語の勉強や留学のことは全く考えていませんでした。大学2年生になると、周りの友達は留学を真剣に考え始め、僕も興味を持ちましたが、日本に行こうとは考えていませんでした。

ある日、日本から書道の先生が特別講座のため大学に来ることを知り、ヨーロッパのカリグラフィーの授業を受講していたので、すぐに興味を持ちました。その日本人の先生は、通訳者を通して、日本語で非常に面白い話をしてくださいました。それがきっかけで、日本語を勉強して日本に留学することを決意しました。

初めての日本留学(東京・中央大学)

書道講座の後、語学学校で日本語を勉強し始めました。翌年に、日本に留学したいと思い、ザグレブ大学の奨学金を知り、これを利用して日本へ短期留学しようと思いました。

中央大学で日本語、日本の文化や歴史について学びました。たくさん友達ができて、日本が大好きになりました。クロアチアに帰国した時に、日本語を忘れないように、ザグレブ大学の日本学コースに入学したいと思いました。

日本学者に進路変更

美術大学を卒業した後に、すぐにザグレブ大学日本学コースに入学して、日本について幅広く勉強しました。3年生の時に、前回よりも長期間の日本留学をしよう決めました。2015年に、大阪教育大学に留学して、日本語、日本の文化を学びながら、留学のきっかけとなった書道を書道サークルで練習しました。

ここで僕の人生が変わりました。前に歩いていた道を、今はもう歩いていないと気が



スヴェン・ビエランさん

- 1988年 クロアチア共和国・首都ザグレブ生まれ。
- 2003年 ザグレブ美術デザイン高校を卒業。
- 2007年 ザグレブ美術大学に入学。
- 2011年 美術大学在籍中、東京の中央大学に留学。
- 2013年 美術大学卒業後、ザグレブ大学哲学部日本学コースに入学。
- 2015年 ザグレブ大学在籍中、大阪教育大学に留学。
- 2017年 国際交流員として新潟県十日町市スポーツ振興課で活躍中。

つきました。もともとグラフィックデザイナーでしたので、その能力も活かしたくて、日本語とグラフィックデザインのスキルが役に立つ仕事を探しました。

いきなり市役所職員

そんななか、かねてから交流のあった在クロアチア日本大使館から電話があって、「クロアチアホストタウンの新潟県十日町市で国際交流員が必要なので、JETプログラムに参加しませんか?」という依頼がありました。

非常に面白い仕事だと思ったし、グラ

フィックデザインのスキルも使えそうな仕事だと思ったので、在クロアチア日本大使館で面接や試験を受けました。志願者の中から僕が選ばれ、十日町市役所の職員になりました。

市松模様の町

十日町市は、2002 FIFAワールドカップ・日韓大会での事前キャンプをきっかけにクロアチア共和国と交流がはじまりました。その後、「クロアチアピッチ」や「ジャパン・クロアチアフレンドシップハウス」が建てられるなど、様々な事業を通して16年もの間、交流が続いています。そのため、町のいたるところでクロアチアの国旗の赤と白の市松模様が見受けられます。

十日町市では、クロアチアカップサッカーフェスティバル、スポーツ応援イベント、学校給食にクロアチアメニューの提供などクロアチアに親しむ授業、クロアチアアーティストの絵画展、名産品の輸入販売、ネクタイの発祥の地であるクロアチアをイメージしたネクタイの販売など様々な事業が開催されています。

現在の最も大きな目標は、2020年東京オリンピック・パラリンピックにおいて、その大会期間中、あるいは事前キャンプを受け入れ、同国選手団をサポートすることです。クロアチアホストタウンとして、市民あげてのおもてなしや応援体制を構築します。

国際交流員である僕は、遠い親戚のような繋がりクロアチアと十日町市の「友好の架け橋」として、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、素晴らしい絆が深まるように積極的に挑戦していきます。

2020年を通過点と位置づけ、その後もスポーツ交流はもちろん、経済・文化・観光交流、そして青少年をはじめとした人的交流を発展させていきたいと思っています。



国内編

大阪府 大阪市



もっと楽しく、深く学ぶために 教室の内と外をつなぐ

京進ランゲージアカデミー 大阪校

教務主任 竹田 奈緒子

大阪市内でも有数の広さを誇る長居公園のすぐそばに、2017年4月、京進ランゲージアカデミー大阪校(以下、KLA 大阪校)は開校しました。2階にある教室の大きな窓からは、季節ごとに表情を変える公園の緑を見下ろすことができます。そこで日本語を学んでいるのは、主に日本での進学や就職を目指している留学生たちです。

社会で行動できる言語使用者の育成

彼らに日本語教育を提供する上で、私たちが目指しているのは「社会で行動できる日本語使用者の育成」です。「学習者」であれ「母語話者」であれ、皆、言葉を使って社会に参加するメンバーの一員です。教室(授業)もまた一つの社会であり、日本語使用者のコミュニティです。そこでは日本語や日本について学ぶだけでなく、他人と協働する楽しさや難しさを感じたり、自分自身を見つめ直したり、様々な視点に触れたり、世界についての知識を広げたりすることができます。教室をそのような学びの場にするために、私たち講師・スタッフは日々努力を重ねていますが、それを通して私たちもまた、多くのことを学んでいます。

教室の外の社会とつながる

日々の学びを、より生き生きしたものにするため、KLA 大阪校では、今年度「全てのクラスで、毎学期1回は教室の外とのつながりを持つ」という目標を掲げました。以下では、『改訂版 トピックによる日本語総合演習 中級前期/後期』(以下、『トピック前期/後期』)を使用した、教室の内と外をつなぐ授業実践例のいくつかをご紹介します。

実践例① 校内でインタビュー

『トピック前期』の1課「旅行」では、学生が講師やスタッフに「一番印象に残った旅行」についてグループでインタビューをし、その内容を発表するという活動を行いました。学生たちはインタビューの依頼の仕方やマナーを知り、グループで協力しながら、聞いたことや自分たちが感じたことをパワーポイントにまとめ、クラス内で発表しました。

実践例② コンビニでインタビュー

次の課では、読み物にコンビニが取り上げられています。そこで、地域のコンビニに出向き、店員さんへのインタビューとその成果発表を実施しました。校外での、また初対面の人へのインタビューは緊張が大きい分、達成感もあります。校内でのインタビューで学んだことを活かしつつ、もう一つ上のステップに進んだという実感を得られる活動になったのではと思います。

実践例③ 「祭り」ポスターセッション

「祭り」の課では、中国、ベトナム、スリランカといった学生たちの出身国の祭り紹介ポスターを作り、小さな発表会を行いました。会場はふだんの教室ですが、観客として外部から日本人のお客様を呼びました。学生たちは5分間の発表を3回繰り返し、観客もまた5分ごとに興味のある発表者のところに移動します。いつものクラス全体に向けての発表とは違い、目の前にいる少数の観客(初対



ポスターセッション。いつもの発表より熱心?

面の日本人)に向けての発表には、より「伝えたい」という想いが込められ、質疑応答もとても活発なものになりました。

実践例④ 老人介護施設で紙芝居

『トピック後期』の「昔話」の課では、学生たちが出身国の昔話を紙芝居にして、地域の老人介護施設で披露しました。初めての場所で、大勢の知らない人の前で話すとおつて学生たちはとても緊張していましたが、最後の質疑応答ではリラックスした笑顔で入所者の方々との交流を楽しんでいました。施設内の見学をした際には、様々な設備・機材に驚いたり、自国の社会状況との違いに考えを巡らせたりと、それぞれの学びがあったようです。



地域の老人介護施設で、紙芝居

日本語で広がる世界、日本語で変わる自分

開校してから約1年半、今回ご紹介したような取り組みが、本当に「社会で行動できる日本語使用者」の育成に繋がっているのか、まだ試行錯誤の段階です。ただ、様々な授業活動に前向きに取り組む学生たちの姿を見ていると、少しずつですが能動的な学びの姿勢を育むことができているという実感があります。KLA 大阪校では3年目に向けて、学生・講師・事務スタッフ皆が、日々の実践を通して共に変わり成長し続けたいという想いを込め、「日本語で広がる世界、日本語で変わる自分」というキャッチコピーを作りました。これからもより楽しく、深く学べる場を作っていくことが、私たちの目標になっています。



海外編

スウェーデン スtockホルム



広く門戸が開かれた、ストックホルムでの学び

ストックホルム大学 人文学部アジア・中東・トルコ学科
専任講師 桑野リデーン充代

スウェーデンでの日本語教育

日本語学習の場は、大学などの高等教育機関、高等学校、市民講座、継承語教育等が挙げられます。日本語主専攻の学士課程がある大学には、ヨーテボリ大学、ルンド大学、ダーラナ大学、そしてストックホルム大学があり、首都の総合大学であるストックホルム大学の日本語専攻は1963年の設置以来、日本語教育の拠点として多数の学習者を輩出してきました。



アジア・中東・トルコ学科があるクレフトリーケ・キャンパス4号館

フルタイム、パートタイムの就学という学び方

ストックホルム大学の学生数は71,000人で、その内フルタイムの学生は約30,000人、残りの約41,000人はパートタイムの学生です。フルタイム・パートタイムの学生とは日本では馴染みのない表現だと思いますが、どちらも正規の学生です。スウェーデンの大学は2学期制で、人文系の学部においてフルタイムで学ぶ場合、学位取得のための修業年限は通常3年間(6学期)です。この間

に欧州単位互換制度で定められた180単位を履修します。卒業までに毎学期30単位を履修する計算ですが、パートタイムで学ぶ場合は各学期あたりの履修単位を減らす形となり、卒業まで4年以上かかることがあります。フルタイム学生は3年間集中して学べるメリットがあり、一方パートタイム学生は、仕事などと並行して卒業まで自分のペースで学んでいくことができます。

柔軟に、そして集中的に学べる環境

本学において日本語は人文学部アジア・中東・トルコ学科で教えられており、日本語・日本学を主専攻とした学士・修士・博士課程があります。日本語専攻は、高校卒業資格という基本条件さえ満たせば入学希望者をほぼ全員受け入れる特殊な体制をとっており、毎年120名以上が専門として日本語の勉強を始めます。日本語専攻のコースでは、所定の180単位のうち127.5単位は日本語・日本事情の必修科目からの修得となっており、フルタイムで学ぶ場合は5学期まで毎学期、日本語22.5単位と日本事情など7.5単位を集中して学び、入学後から専門科目の比重が大きいことが特徴です。6学期目には論文執筆講座を30単位履修する構成になっています。毎年、多くの新入生を迎えることができるのは嬉しいことですが、127.5単位分の効果的な日本語・日本文化の授業活動を考える必要があるなど課題も多くあります。

日本語専攻の学生にはアニメや漫画をきっかけに学び始める人も多いのですが、日本語そのものに興味を持って学習する人も大勢います。年齢も様々で、18歳から60歳の学生が日本語を学んでいます。パートタイムで就学できることや年齢に関係なく学べること、希望者を広く受け入れ、そして学費が無料であることから、本コースは「広く門戸が開かれた生涯学習の場」だと言えるで

しょう。しかし、学生は途中で専攻を変えることができるため、趣味で日本語を学び始めた場合、初級でやめてしまう人も多く、3学期以降の中級・上級の日本語を学ぶ学生数は少なくなります。この場合、選択科目として日本語学習を続けるなど、柔軟な学び方が可能ですが、コースとしてはいかに中級以降の学習者数を多く保つかという課題があります。



『改訂版 日本語中級 J301』で学ぶ学生たち

3学期以降は日本の協定校へ留学する機会があるほか、近年は遠隔会議システムを使って日本の大学生と交流するなど、授業の工夫を行っています。

学生たちの進路と現状

学習動機が日本語そのものへの興味という人が多いことから、修士課程で研究を続ける学生も多く、大学院の日本学専攻コースは日本語・日本文化への深い理解を通して日本とスウェーデンの架け橋となる人材育成の拠点となっています。一方、学部卒業後、日本関連の仕事に就きたいと希望する学生も多いのですが、国内で日本語が活用できる職場はまだ少ないのが現状で、身につけた日本語で学生が活躍できる機会を増やしたいというのが私たちの願いです。

教材紹介

『新訂版トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 中級後期』

安藤節子・佐々木薫・赤木浩文・田口典子・鈴木孝恵 編著
B5判 123頁(予定) 1,500円+税



内容中心の教材で発信する力を身につける

安藤節子 佐々木薫

『トピックによる日本語総合演習』のシリーズは中級前期、中級後期、上級の3冊からなります。本書の初版が出版されたのは2001年でした。内容を重視し、かつ学習者の主体的な活動を支援する教授法を具現化したテキストの、先駆けと言えましょう。2009年の改訂版を経て、初版刊行以来18年になりますが、今回は主に本書に含まれるグラフや表の統計データを新しく差し替えて新訂版とし、まず中級後期の1冊を完成させました。

◆本書の特徴

一つのトピックを中心に日本事情を学びながら、そのトピックに関して学習者が自ら課題を見つけ、実際に調査を行います。学習者は、これまで学んできた言語知識と運用力を有機的に統合し、最終的には自らの文化や考えを発信することを目標とします。教師のアドバイスを受けながら一つの調査を完成させることにより、大きな達成感を感じることができるでしょう。そして、この活動から内容をまとめ

る力も養われ、相手にわかりやすく伝える力が付くことも期待されます。

◆本書の構成と授業の流れ

1 「はじめに」 トピックに興味を持つ 導入

各自が知っていることや疑問に思うことなどを自由に話し合うことにより、トピックを身近に感じてもらいます。同時にキーワードを学びます。

2 「情報1、2」 グラフや読み物から情報を得る インプット

グラフを説明し、その中から読み取れることを考えたり、トピックについて一つの側面を切り取った読み物を読むことにより、理解を深めます。

3 「タスク」 調査発表をする アウトプット

自分で決めたテーマでタスクを行います。タスクは資料調査、アンケート調査、インタビューの結果を口頭で発表したり、文集にまとめたりします。

◆中級後期で扱うトピック

「教育」「言葉」「コミュニケーション」「昔話」「住宅」

『改訂版 聞く・考える・話す 留学生のための初級にほんご会話』

小池真理・中川道子・宮崎聡子・平塚真理 著
B5判 238頁 別冊56頁(予定) 2,200円+税 3月発売予定

初級レベルから「考える」ことを通して伸ばすコミュニケーション能力

長崎外国語大学 特任講師 宮崎聡子

◆本書の特徴

『聞く・考える・話す 留学生のための初級にほんご会話』は、初級の学習者を対象に、円滑にコミュニケーションできる能力の養成を目的として、2007年に初版が出版されました。それ以来、さまざまな現場で使用していただき、このたび改訂版を出版することになりました。本書は、日本語を学習する最初の段階から、できるだけ実際の会話場面に近い状況で、実際と同様の思考プロセスで会話を進める練習ができるように工夫してあります。その一つが、学習者自身が「考える」というステップを設けていることです。「考える」ことを通して日本語の表現やコミュニケーションに対する理解を深め、学習者自身の既有的知識とネットワークを作り、応用力・自己モニター能力・観察力を養うことを目指しています。各課の最後に行うロールプレイでは、会話を行うA役・B役の2種類のロールプレイヤー

ド(翻訳付き)が用意されています。これは、互いの状況がわからない状態で会話を行うというもので、より実際のコミュニケーション場面に近づけて練習できるようになっています。

◆改訂版ではさらに使いやすく

改訂版では全体を見直し、時代の流れに合うように場面や語彙の変更や追加を行いました。また各課に「違う場面」という練習会話を増やし、よりレベルアップしたいという学習者のニーズに応えられるようにしました。本書をお使いいただく際に必要な音声ファイル、語彙リスト(英語・中国語・韓国語・ベトナム語訳付き)は、スリーエーネットワークのウェブサイトにて公開されます。さらに、教師用ガイドや音声スクリプトも同サイトにて公開されますので、本書と合わせてぜひご活用ください。

『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 動画で学ぶ大学の講義』

東京外国語大学留学生日本語教育センター 編著
B5判 100頁 + 別冊 70頁(予定) 2,000円+税 3月発売予定

講義動画で実践的な練習を

東京外国語大学大学院国際日本学研究院 教授 坂本恵

本書はすでに出版されている『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解』シリーズ3冊「中級・中上級・上級」の完結編として、東京外国語大学留学生日本語教育センターで長年留学生の教育に携わってきた先生方の講義を教材にしたものです。大学で学んでいる、あるいは学ぶことを目的としている留学生が、講義とはどのようなものかを理解し、講義を聞く練習、ノートを取る練習をして、大学で講義を効果的に受けられるようになることを目指しています。

○本書の構成と内容

本書は3部構成になっています。第1部では講義とはどのようなものかについての解説を読み、第2部では、10本の講義映像を見ながら練習をします。講義映像は、1つのトピックについて20分程度で、多くの方に興味を持っていただけるように分野は日本語学、文学、

日本語教育、思想史、異文化理解、歴史、数学、物理学、生物学と多岐にわたっています。第3部には、講義の解説と、ノート例があります。講義映像の SCRIPT と、問題の解答は別冊になっています。

第2部の各課の構成は次のとおりです。まず、「講義の紹介」でその講義がどのような分野で、どんな流れの中に位置づけられているかを紹介し、続いて「講師の紹介」があります。「A 講義を聞く前に」でウォーミングアップの問題を考えてから、「B 講義を聞きましょう」で、「資料」を見ながら講義を聞き、内容が理解できているか「C 内容確認問題」に答えます。その後「D 発展学習」と続き、最後に講義をしてくださった先生からのメッセージと、さらに学びたい方のために文献が紹介されています。

本書を通じて、講義を聞く楽しさを知っていただければと思います。

※講義動画は、パソコン、タブレット、スマートフォン等で、スリーエーネットワークのウェブサイトから、ストリーミング再生でご視聴いただけます。

『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期 第2版』

平井悦子・三輪さち子 著
B5判 200頁 別冊 72頁(予定) CD1枚付 2,200円 3月発売予定

「第2版」は更に内容が充実

三輪さち子

2007年、『中級へ行こう』に続く教材として『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期』初版第1刷を出版いたしました。お陰様で多くの日本語学習者に利用していただき、刷を重ねてまいりました。

初版出版から11年。今般、初版の目標に加え「読解力をつける」「中級レベルの語彙を増やす」という視点から加筆修正を行いました。使いやすさはそのままに、練習問題も精査し、部分的に改訂いたしました。次の8点が新しくなります。

その1. 56の学習項目とそれに関連した学習項目13項目を発展学習として取り上げました。

その2. 本文に新たに本文内容を問う「大意を問う問題・精読用問題」を加えました。

その3. 練習問題に「聞こう」を加えました。

その4. 学習項目の意味用法の説明と、別冊の語彙リストに英語、

中国語、韓国語、ベトナム語の訳をつけました。

その5. 新たに「チェックシート」を追加(各課1ページ10問)。その課で扱っている語彙・文型表現がマスターできたかどうかを5分程度で確認できます。

その6. 巻末に漢字練習のページを追加。各課「本文」がルビなしで読めること、漢字語彙を増やすことが目標。漢字数は189字。構成は漢字リスト、語彙レベルでの読み練習、ルビのついていない本文です。

その7. 付属CDには本文(1回)と、練習問題「聞こう」が収録されています。

その8. スリーエーネットワークのウェブサイト「教師用手引き」と「総合問題」掲載。「教師用手引き」には本書の各項目についての補足説明、及び、参考用本文試験問題(第1課)。「総合問題」は語彙選択・文完成・接続などで構成。語彙・文型表現の振り返り問題としてお使いください。

今後もより多くの日本語学習者の皆様に使っていただけることを願っております。



なんでも情報 BOX

Books ほん

すべて本体価格です

新訂版トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ中級後期	1,500 円	好評発売中
新装版 いっしょにほんごさんぽ暮らしのにほんご教室 初級2	2,400 円	2月発行予定
改訂版 聞く・考える・話す 留学生のための初級にほんご会話	2,200 円	3月発行予定
中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期 第2版	2,200 円	3月発売予定
留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 動画で学ぶ大学の講義	2,000 円	3月発売予定

Seminars

セミナー

『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期 第2版』改訂のポイントと具体的な指導の方法

講師：平井悦子、三輪さち子（『中級へ行こう』『中級を学ぼう』シリーズ著者）

東京

日時：3月23日（土） 14:00-16:00（受付開始 13:30）

会場：TKP 麴町駅前会議室 ホール8A（東京都千代田区麴町3-2麴町共同ビル8階）

大阪

日時：4月13日（土） 14:00-16:00（受付開始 13:30）

会場：愛日会館（大阪府大阪市中央区本町4-7-11）

2会場共通

対象：日本語学校、専門学校、大学で日本語を教えていらっしゃる方

定員：80名（先着順。定員になり次第締め切ります）

参加費：無料

主催：スリーエーネットワーク

中級からはじめるビジネス日本語指導のポイント

『中級レベル ロールプレイで学ぶビジネス日本語—就活から入社まで—』を使って—

講師：村野節子（武蔵野大学 非常勤講師）

日時：3月30日（土） 14:00-16:00（受付開始 13:30）

会場：愛日会館（大阪府大阪市中央区本町4-7-11）

対象：教育機関で外国人に対する「ビジネス日本語」や就職の指導に携わる先生

定員：80名（先着順。定員になり次第締め切ります）

参加費：無料

主催：スリーエーネットワーク

問合せ／申込み先

スリーエーネットワーク講座係

〒102-0083 東京都千代田区麴町3-4 トラスティ麴町ビル2F

TEL：03-5275-2722 FAX：03-5275-2729

E-mail：kouza@3anet.co.jp

お申込みの際は、セミナー名（開催日）・お名前・ご所属・ご住所・お電話番号、日本語教授歴を明記してください。電話での申込みはお受けできませんので、FAX、E-mail、はがきにてお申込みください。

Information

お知らせ

第60回 外国人による日本語弁論大会 出場者募集

日時：6月1日（土） 13:00 開始

会場：八戸市公会堂（青森県八戸市内丸1-1-1）

応募受付期間：2月1日（金）～4月16日（火）

主催：一般社団法人 国際教育振興会、独立行政法人 国際交流基金、八戸市

大会ウェブサイト：

http://www.iec-nichibei.or.jp/iec04_2.html

問合せ：一般社団法人 国際教育振興会

TEL：03-3359-9620 FAX：03-3353-8908

E-mail：benron@iec-nichibei.or.jp



ウェブサイトリニューアルのお知らせ

いつも弊社のウェブサイトをご訪問いただき、誠にありがとうございます。この度、ウェブサイトを全面リニューアルいたします。主なリニューアル点は、以下の通りです。

1. マイページにログインしてより使いやすく

名前とメールアドレスを登録していただくと、マイページがご利用いただけます。Ja-Net 最新号がウェブ版でご覧いただけたり、使用教材やお気に入り教材を登録すると、関連する情報が優先的にマイページに表示されたり、より便利にご覧いただけます。

2. 動画、音声、教師用指導書などの補助教材の拡充

教材をより効率的にお使いいただけるように無料、一部有料の補助教材を拡充します。

3. レイアウトやデザインの改善・スマートフォン対応

情報をより分かりやすくお伝えできるウェブサイトとなるよう、レイアウトやデザインを全面改修、さらにスマートフォンにも対応したレイアウトで見やすくなります。

2019年2月中の公開を目標に現在作業中です。より見やすく、より使いやすい、内容の充実したウェブサイトを目指します。今後とも何卒よろしく願い申し上げます。

日本語での「オモテナシ」を考えるとオススメの一冊

『もしも…あなたが外国人と「日本語で話す」としたら とりあえず日本語でくデジタル版』
荒川洋平 著 価格 800円＋税



この本では外国人と日本語でやりとりすること、さらに外国人どうしが日本語でやりとりすることを「対外日本語コミュニケーション」と名づけ、様々な場面で実際に起こりうる例をもとに考察し、問題点や解決法を探っていきます。一読後には、カタコトの外国語を話すよりもはるかに洗練された国際コミュニケーションになれるかも！

*電子書籍です。主要な電子書店にてお買い求めいただけます。http://www.3anet.co.jp/ja/2902/

『みんなの日本語 語彙訳』価格改定のお知らせ

『みんなの日本語 語彙訳』の価格を2019年2月1日より改定することとなりました。何卒ご理解を賜りたくお願い申し上げます。

旧価格：800円（税・送料込） → 新価格：800円＋税（送料込）

Ja-Net No. 88

季刊ジャネット

スリーエーネットワークという社名は、アジア（Asia）、アフリカ（Africa）、ラテン・アメリカ（Latin America）の三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2019年1月25日発行

●発行人 藤崎政子

●発行所 (株)スリーエーネットワーク

Ja-Net 編集室

〒102-0083 東京都千代田区麴町3-4

トラスティ麴町ビル2F

TEL：03-5275-2722 FAX：03-5275-2729

E-mail：sales@3anet.co.jp

http://www.3anet.co.jp/

●印刷 (株)ワコー

© 2019 by 3A Corporation Printed in Japan

(禁断転載)

●『Ja-Net』をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします。『Ja-Net』第89号は2019年4月25日発行予定です。